

議員活動資料

平成 14 年 9 月 5 日

蒼天の志

須坂市議会議員 佐藤壽三郎

出直し選挙で再選された田中康夫知事は、本日登庁される。心から祝福を申しあげたい。信濃毎日新聞は県内市長に「2期目の田中県政への注文」を特集した。概要は、知事の公約である「お出かけ知事室」(仮称)について、市長が知事との対話のきっかけになることを期待しているように見受けられる。

戦後55年、長野県政は、恰も深層海のような荒波のたたないなかで、知事独裁と県職員の官僚県政を布いて来た。お上の感覚が色濃く残る県でありました。田中康夫知事の登場は、旧体質になれた市町村長には回転が早すぎて着いてゆけない「戸惑い」部分であったと思える。長野県民の地縁・血縁・既得権の金縛り体質を打破するには、二十歳代(はたちだい)に県外にて過ごすことが、如何に大切であるかを感じる。かく言う私も、二十歳代を都会で過ごした。私の頭にも、地縁の序列や血縁のしがらみや既得権の不透明さはない。市議会では是々非々を貫けるのは、どうもこのことが必要であるとも思える。では、そのエネルギーが何処から湧くかであります。

思うに、蒼天はいつも雲がない。私心がないことが肝要と思います。

「地位も名誉も金も命すらも眼中にないやつほど扱いにくいものはない。しかし、そういうやつでないと事に当たる時に頼りにならない。」と西郷隆盛が山岡鉄舟を評して言っています。私が田中知事に期待する部分は、将にここにあります。知事と市議会議員との役割は違うけど、同位角の改革意識をもって、長野県を、須坂市を変えて行きたいと思えます。